

平成 26 事業年度

公立大学法人岩手県立大学の業務の実績に関する評価結果

平成 27 年 8 月

岩手県地方独立行政法人評価委員会

目 次

	頁
1 はじめに	1
2 全体評価	
(1) 総評	1
(2) 各分野における平成 26 事業年度の取組	1
3 項目別評価	
(1) 項目別評価の状況及び「A A 評価（特筆すべき進行状況にある）」の取組	2
(2) 改善が望まれる取組	2
別表 項目別評価の状況及び「A A 評価（特筆すべき進行状況にある）」の取組	3

1 はじめに

本評価委員会は、平成 18 年 5 月に策定した「公立大学法人岩手県立大学に係る各事業年度業務実績評価実施要領」に基づき、

- ① 平成 26 事業年度における中期計画の実施状況の調査
 - ② 当該事業年度における中期計画の実施状況の分析
 - ③ 業務の実績全体についての総合的な評定
- を内容とする評価を行った。(評価の具体的な方法は下記のとおり。)

記

(1) 項目別評価

法人による自己評価の結果を基に、法人からのヒアリング等を通じて、年度計画に照らして進捗状況を確認し、自己評価の妥当性の検証と評価を行った。

なお、教育研究等の質の向上に関する項目については、教育研究の特性への配慮から、専門的な観点からの評価は行わず、取組の外形的・客観的な進捗状況の観点からの評価を行った。

また、評価委員会が認める「AA 評価（特筆すべき進行状況にある）」については、

- ① 年度計画に掲げる取組を達成しつつ、更に中期計画に沿った取組が付加・実現されているもの
- ② 取組の結果、何らかの成果が明らかになっているものを対象とした。

(AA 評価の例)

- ・年度計画において、「制度の創設」を当該年度の取組としていたものについて、実績において「制度を創設」したことに加え、「制度を運用」した場合
- ・積極的な県内企業訪問の結果、県内求人数が増加した場合 など

(2) 全体評価

「項目別評価」の結果及び中期計画の達成状況を踏まえ、中期計画の全体的な進捗状況及び業務の実績全体について総合的な評価を行った。

2 全体評価

(1) 総評

中期計画に基づく平成 26 事業年度計画は「おおむね計画どおり進められた」と認められる。

ア 平成 26 事業年度計画の取組

- 平成 26 事業年度においては、年度計画に掲げる取組 50 項目全てが「B 評価（おおむね計画どおり進んでいる）」以上と評価され、また、そのうち「A 評価（計画どおり進んでいる）」以上の項目は 84.0%（42 項目）であることから、年度計画全般において概ね計画通り取組が進められたものと評価できる。

	平成 26 年度
A 評価以上	42 項目 (84.0%)
B 評価	8 項目 (16.0%)
C 評価	0 項目 (0.0%)
D 評価	0 項目 (0.0%)

イ 第 1 期中期計画からの継続課題

- 第 1 期中期計画からの継続課題となっている大学院の定員は依然として充足しておらず、定員確保に向けて引き続き努める必要がある。

(2) 各分野における平成 26 事業年度の取組

- 大学の教育・研究、地域貢献等に関しては、
 - ① 入学前教育やリメディアル教育^{*1}による学習支援等、大学での学びに円滑に移行するための取組を積極的に行っていること
 - ② 多目的スペース「風のモント」の整備やライブラリー・アテンダント（図書館をよりよくするために集まった学生ボランティア）の積極的な活動等により、メディアセンター（図書館）の学習支援環境の充実を図り、学生の図書館利用を促進したこと
 - ③ 東日本大震災津波の被災学生を含む経済的に就学困難な学生や修学上の特別な支援を要する学生に対する支援等、学生の生活支援体制の強化を図ったこと

- ④ 後援会による助成支援制度の創設等各種支援により、学生の課外活動や被災地支援等のボランティア活動が活発化したこと
 - ⑤ 各学部等に蓄積された知的資源を活用し、自治体等と連携しながら、震災復興支援活動をはじめとした地域課題の解決に向けた取組を推進したこと
 - ⑥ 地域のニーズに対応した高度専門教育や公開講座を実施し、県民の公開講座参加が大幅に増加したこと
- など、被災地の大学として東日本大震災津波の復興支援に積極的に取り組んだほか、学生への支援や地域課題解決に対する特色ある活動に取り組み、その成果が認められることは、高く評価できる。

- 業務運営の改善及び効率化に関しては、FD（ファカルティ・ディベロップメント）^{※2}とSD（スタッフ・ディベロップメント）^{※3}を融合したプログラムの実施、eラーニング研修の開催等によりSD活動を推進したことは、高く評価できる。
- 財務内容の改善に関しては、中期計画達成のための予算編成に取り組み、決算において黒字となったことや、業務プロセスの改善を図り、超過勤務を縮減したことは、評価できる。
- 自己点検・評価・改善及び情報の提供に関しては、オープンキャンバスでのキャンパスアテンダント（入試に関わる広報活動を行う学生）によるワークショップ等新たな企画をしたほか、マスメディアやソーシャルメディアを活用し積極的な広報活動を実施したことは、高く評価できる。
- 安全管理に関しては、教職員や学生の健康管理体制及び相談体制の充実や危機管理マニュアルの整備、全学対象の避難訓練の実施等により危機管理対策が進捗したことは、高く評価できる。

※1 大学教育を受ける前提となる基礎的な知識等を、大学の入学前後に学びなおす補習教育のこと。
※2 教員がより質の高い教育を提供できるように、教育内容や教授能力を改善・向上させるための組織的な取組のこと。
※3 職員が管理運営や教育・研究支援等に関する業務の資質を向上させるための組織的な取組のこと。

3 項目別評価

- I 大学の教育・研究等に関する目標を達成するための措置
⇒「おおむね計画どおり進んでいる」。全ての項目が「B評価」以上であり、「A評価」以上の項目が82.4%を占めていることは、高く評価できる。
 - II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置
⇒「おおむね計画どおり進んでいる」。全ての項目が「B評価」以上であり、「A評価」以上の項目が83.3%を占めていることは、高く評価できる。
 - III 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置
⇒「おおむね計画どおり進んでいる」。全ての項目が「B評価」以上であり、「A評価」以上の項目が75.0%を占めていることは、高く評価できる。
 - IV 自己点検・評価・改善及び情報の提供に関する目標を達成するための措置
⇒「計画どおり進んでいる」。全ての項目が「A評価」以上であったことは、高く評価できる。
 - V その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置
⇒「計画どおり進んでいる」。全ての項目が「A評価」以上であったことは、高く評価できる。
- ※VI～IXについては、平成26事業年度は年度計画の設定なし。

- (1) 項目別評価の状況及び「AA評価(特筆すべき進行状況にある)」の取組別表のとおり
- (2) 改善が望まれる取組
「C評価(やや遅れている)」及び「D評価(重大な改善事項がある)」の項目がなかったことは、各事業の着実な推進が認められ高く評価できる。今後、第2期中期目標の達成を見据えて「B評価」の項目等の取組をより一層推進することが望まれる。

【別表】項目別評価の状況及び「AA評価（特筆すべき進行状況にある）」の取組

評価の判断基準

法人の実績報告において「特記事項」として報告されているもののうち、下記と認められるもの

- ①年度計画に掲げる取組を達成しつつ、更に中期計画に沿った取組が付加・実現されているもの
- ②取組の結果、何らかの成果が明らかになっているもの

区分	評価			AA評価項目	摘要																																																																																															
	区分	法人	委員会			委員会評価割合(%)																																																																																														
I 大学の教育・研究等に関する目標を達成するための措置 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 「おおむね計画どおり進んでいる」と判断される </div> ※AA～B 評価割合 100.0%	AA		6	17.6	◎全学的な取組 1 大学の学びに円滑に移行するための導入教育やリメディアル教育の充実【No.4】 (1) A〇入試（社会福祉学部、ソフトウェア情報学部、総合政策学部）、推薦入試・震災特別推薦入試（看護学部、ソフトウェア情報学部）の合格者（109名）を対象に、eラーニングによる入学前教育を計画的に実施した。 (2) 大学での学びに円滑に移行するための導入教育の充実を図るため、以下のような取組を行った。 【看護学部】 生物・化学の理解度調査の結果を踏まえ、入学前教育の時期を12月に早め、その期間を2倍に設定した。また、eラーニング教育に関するアンケート調査を実施したところ、インターネット環境が整わない生徒がいたことから、高校側と連携して学習環境を整えた。 【ソフトウェア情報学部】 eラーニングのほかに、入学前教育のためのテキスト（高校数学）を配布し入学前教育を実施したところ、入学前と比べて学力が向上した。 (3) 大学での学びに円滑に移行するためのリメディアル教育として、以下のような取組を行った。 【総合政策学部】 平成27年度から「基礎数理I」（正課）の補習授業として、元高校教員を講師に招き、数学のリメディアル教育を開始することを決定した。 【ソフトウェア情報学部】 教員とティーチングアシスタント（TA）を配置した学習サポートコーナーを活用して、リメディアル教育の対象科目「情報基礎数学A、B、C」を受講している学生に対する学習支援を実施した（利用件数 H25：7件⇒H26：38件）。																																																																																															
	A	28	22	64.8																																																																																																
	B	6	6	17.6																																																																																																
	C	0	0	0.0																																																																																																
	D	0	0	0.0																																																																																																
	計	34	34	100.0																																																																																																
	※凡例																																																																																																			
	AA：特筆すべき進行状況にある。																																																																																																			
	A：計画どおり進んでいる。																																																																																																			
	B：おおむね計画どおり進んでいる。																																																																																																			
C：やや遅れている。																																																																																																				
D：重大な改善事項がある。																																																																																																				
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <caption>◎入試の状況</caption> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">県立大学</td> <td rowspan="3">学部</td> <td>入学者数</td> <td>481</td> <td>467</td> </tr> <tr> <td>志願者数</td> <td>2,655</td> <td>2,585</td> </tr> <tr> <td>実質倍率</td> <td>6.0</td> <td>5.9</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">大学院</td> <td>入学者数</td> <td>59</td> <td>61</td> </tr> <tr> <td>志願者数</td> <td>69</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>実質倍率</td> <td>0.6</td> <td>0.7</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">盛岡短期大学部</td> <td>入学者数</td> <td>104</td> <td>122</td> </tr> <tr> <td>志願者数</td> <td>302</td> <td>295</td> </tr> <tr> <td>実質倍率</td> <td>3.0</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td>受験者数</td> <td>228</td> <td>212</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">宮古短期大学部</td> <td>入学者数</td> <td>105</td> <td>108</td> </tr> <tr> <td>志願者数</td> <td>221</td> <td>153</td> </tr> <tr> <td>実質倍率</td> <td>2.2</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>受験者数</td> <td>136</td> <td>144</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">(人・%)</p> <p>※志願倍率=志願者数/入学定員 実質倍率=受験者数/合格者数 ◎学生定員充足</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <caption>◎学生定員充足</caption> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">県立大学</td> <td rowspan="3">学部</td> <td>定員</td> <td>1,840</td> <td>1,840</td> </tr> <tr> <td>在籍数</td> <td>1,978</td> <td>2,010</td> </tr> <tr> <td>充足率</td> <td>107.5</td> <td>109.2</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">大学院</td> <td>定員</td> <td>239</td> <td>239</td> </tr> <tr> <td>在籍数</td> <td>174</td> <td>169</td> </tr> <tr> <td>充足率</td> <td>72.8</td> <td>70.7</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">盛岡短期大学部</td> <td>定員</td> <td>200</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>在籍数</td> <td>232</td> <td>229</td> </tr> <tr> <td>充足率</td> <td>116.0</td> <td>114.5</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">宮古短期大学部</td> <td>定員</td> <td>200</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>在籍数</td> <td>213</td> <td>223</td> </tr> <tr> <td>充足率</td> <td>106.5</td> <td>111.5</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">(H26.5.1時点、人・%)</p>					区分		H25	H26	県立大学	学部	入学者数	481	467	志願者数	2,655	2,585	実質倍率	6.0	5.9	大学院	入学者数	59	61	志願者数	69	75	実質倍率	0.6	0.7	盛岡短期大学部	入学者数	104	122	志願者数	302	295	実質倍率	3.0	3.0	受験者数	228	212	宮古短期大学部	入学者数	105	108	志願者数	221	153	実質倍率	2.2	1.5	受験者数	136	144	区分		H25	H26	県立大学	学部	定員	1,840	1,840	在籍数	1,978	2,010	充足率	107.5	109.2	大学院	定員	239	239	在籍数	174	169	充足率	72.8	70.7	盛岡短期大学部	定員	200	200	在籍数	232	229	充足率	116.0	114.5	宮古短期大学部	定員	200	200	在籍数	213	223	充足率	106.5	111.5
区分		H25	H26																																																																																																	
県立大学	学部	入学者数	481	467																																																																																																
		志願者数	2,655	2,585																																																																																																
		実質倍率	6.0	5.9																																																																																																
	大学院	入学者数	59	61																																																																																																
		志願者数	69	75																																																																																																
		実質倍率	0.6	0.7																																																																																																
盛岡短期大学部	入学者数	104	122																																																																																																	
	志願者数	302	295																																																																																																	
	実質倍率	3.0	3.0																																																																																																	
	受験者数	228	212																																																																																																	
宮古短期大学部	入学者数	105	108																																																																																																	
	志願者数	221	153																																																																																																	
	実質倍率	2.2	1.5																																																																																																	
	受験者数	136	144																																																																																																	
区分		H25	H26																																																																																																	
県立大学	学部	定員	1,840	1,840																																																																																																
		在籍数	1,978	2,010																																																																																																
		充足率	107.5	109.2																																																																																																
	大学院	定員	239	239																																																																																																
		在籍数	174	169																																																																																																
		充足率	72.8	70.7																																																																																																
盛岡短期大学部	定員	200	200																																																																																																	
	在籍数	232	229																																																																																																	
	充足率	116.0	114.5																																																																																																	
宮古短期大学部	定員	200	200																																																																																																	
	在籍数	213	223																																																																																																	
	充足率	106.5	111.5																																																																																																	

区分	評価				AA評価項目	摘要																					
	区分	法人	委員会	委員会評価割合 (%)																							
					<p>2 メディアセンター（図書館）の機能強化と学生の自学自習の促進【No.17】</p> <p>(1) 課外での自学自習や学生同士の交流等ができる共用スペースとして、多目的スペース「風のモント」を整備し、7月から運用を開始した。整備後は、1日あたり平均121名が利用した。また、利用環境を改善するため、利用者である学生の要望に基づき、パーテーションやOAタップ、壁面ホワイトボードを配置した。</p> <p>(2) ライブラリー・アテンダント（図書館をよりよくするために集まった学生ボランティア）による企画展示（3回）やイベント（2回）を開催するとともに、ライブラリー・アテンダントの活動については、フェイスブックで情報発信したほか、学生協働シンポジウム（山口市）や図書館総合展（横浜市）で事例報告を行った。また、教員による「日本語リテラシー教室」（3回）と「読み方・書き方教室」（2回）の開催や、多目的スペース「風のモント」において、11月からピアサポーターによる定期相談を行った。これらの取組により、学生の図書館利用は、昨年度に比べ、入館者数は3,573名（H25:73,025名⇒H26:76,598名）、貸出冊数は1,203冊（H25:17,716冊⇒H26:18,919冊）増加した。</p> <p>(3) 図書購入費の見直しを行うため、大学の学習、教育、研究に欠かせない冊子体雑誌、電子ジャーナル、データベースについて、「岩手県立大学コアジャーナル」として厳選し、その選定作業に着手した。また、3ヵ年計画（平成25年度～平成27年度）による雑誌の保存期間の見直しや5年循環による研究室保管図書の点検を開始し、効果的な図書館予算の執行を図るとともに、所蔵スペースの確保及び利用者視点に立った配架を行った。</p> <p>3 学生生活や健康管理に関する支援及び修学困難な学生に対する経済的支援の充実【No.18】</p> <p>(1) 学生の留年、休学、退学を未然に防ぐため、「長期欠席等配慮を必要とする学生への対応検討ワーキンググループ」を設置し、効果的な対応のあり方を検討・協議し、対応の方向性を報告書として取りまとめた。</p> <p>(2) 通常の経済的事情による授業料減免のほかに、東日本大震災津波で被災した学生に係る授業料及び入学金の減免を継続して実施した。（震災減免 入学金免除：44名、授業料免除：延べ237名）</p> <p>(3) 平成25年度に創設した学業奨励金「被災特別枠」による貸与を継続し、第一種6名、第二種2名、大学院2名が利用した。</p> <p>(4) 教職員の修学上の特別な支援を要する学生に対する理解を深めるとともに、支援の充実を図った。</p> <p>① 特別支援コーディネーターによる相談対応（相談件数467件。うち支援対象決定者数16名。）</p> <p>② 特別な支援を必要とする学生に対し、履修登録の個別対応を実施。</p> <p>③ 特別な支援を要する学生に対し、学部、本部、特別支援コーディネーターの連携による支援体制を構築。</p> <p>(5) 心身の不調を訴える学生が増加しており、これら学生の休養スペースを確保するとともに、相談体制の見直しを行って学生が出来るだけスムーズに相談できるよう配慮を行った（相談件数3,072件）。</p>	<p>○滝沢キャンパス図書館の利用</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入館者数（人）</td> <td>73,025</td> <td>76,598</td> </tr> <tr> <td>貸出図書冊数（冊）</td> <td>17,716</td> <td>18,919</td> </tr> </tbody> </table> <p>○学生に対する特別支援</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>相談件数（件）</td> <td>205</td> <td>467</td> </tr> <tr> <td>支援対象者（人）</td> <td>13</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>支援件数（件） （相談対応除く）</td> <td>58</td> <td>57</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H25	H26	入館者数（人）	73,025	76,598	貸出図書冊数（冊）	17,716	18,919	区分	H25	H26	相談件数（件）	205	467	支援対象者（人）	13	16	支援件数（件） （相談対応除く）	58	57
区分	H25	H26																									
入館者数（人）	73,025	76,598																									
貸出図書冊数（冊）	17,716	18,919																									
区分	H25	H26																									
相談件数（件）	205	467																									
支援対象者（人）	13	16																									
支援件数（件） （相談対応除く）	58	57																									

区分	評価				AA評価項目	摘要																																		
	区分	法人	委員会	委員会評価割合 (%)																																				
					<p>4 学生の課外活動や地域活動の支援及び後援会を核とした保護者との連携強化【No.19】</p> <p>(1) 学生の様々な活動が円滑にできるよう学生団体の設立や費用負担等の相談に応じた。それにより、将棋部員の学生名人獲得やスケート部員の国体入賞など、全国でも秀でた成績を収めることができた。また、学生ボランティア団体「うめえもん届け隊（被災地の菓子等の詰め合わせを大学祭等で販売）」に対しては、県補助事業への申請等に関する助言を行い、採択された。</p> <p>(2) サークル活動の活性化及びその運営の適正化に資するため、代表者の交代時期に、新任リーダー等を対象に、サークルリーダーズ研修会を実施した（1/15、参加者 88 名）。</p> <p>(3) 平成 25 年度に新設した「被災地支援を行う学生ボランティア活動への支援事業」を継続し、8 グループの活動（延べ 96 名）を支援した。それにより、「いわて GINGA-NET」のほか、観光振興を目的としたツリーハウス作りの作業補助、施設等を訪問しての化粧・ハンドマッサージボランティア、地域のお祭りにおける子どもの遊び場作りなど様々な取組が行われた。</p> <p>(4) 後援会会報誌を通じて、学生の活躍について情報提供を行ったほか、初めて後援会役員との情報交換会を実施し、後援会活動の一層の充実を図った。また、平成 21 年度から毎年開催している学生の保証人を対象とする後援会主催の地域懇談会について、県内 5 会場で引き続き実施し、多くの保護者との懇談を行った。（参加者 196 名、個別相談 56 組）</p> <p>(5) 後援会による学生会への財政的支援として、新たにサークル活動に必要な高額備品（楽器等）を整備したほか、学生の資格取得を支援するため「語学等資格試験受験料助成事業」を創設した。）</p> <p>5 自治体等と連携のうえ地域課題解決に向けた取組の強化【No.30】</p> <p>(1) 各学部の専門知識や県立大学の人材資源を活用し、自治体等と連携して、岩手県の地域課題の解決に向けた実践活動、地域貢献活動を展開した。</p> <p>【看護学部】 プログラム編成を見直しのうえ、岩手県委託事業である「新人看護師等研修」を実施（参加者 234 名）。</p> <p>【社会福祉学部】 岩手県保健福祉部から研修事業を受託し、行政職員研修（8 回、参加者 218 名）、社会福祉事業者研修（6 回、参加者 132 名）、特定課題研修（4 回、参加者 162 名）を開催。また、県教育委員会による県立高校へのスクールカウンセラー派遣事業で学部の臨床心理士 3 名が活動（計 48 回）。</p> <p>【総合政策学部】 滝沢市と学生が協働し、滝沢市総合計画のパンフレットを作成。</p> <p>【宮古短期大学部】 宮古地区の水産加工業者 4 社で結成された「チーム漁火」、宮古市、宮古短期大学部の 3 者による経営改善の勉強会を実施。なお、「チーム漁火」の取組は、被災地の産業復興の成功事例として、復興庁の「被災地の元気企業 40」に選定された。</p> <p>【看護学部、社会福祉学部、ソフトウェア情報学部、総合政策学部、盛岡短期大学部、宮古短期大学部】 行政機関が設置する審議会や委員会等に教員が延べ 449 名参画。</p> <p>(2) 岩手県立大学災害復興支援センターにおいて、ボランティアバスの運行（全 14 回）のほか、教職員が行う災害復興支援ボランティア活動に対して経費の助成や物資の提供等を行った。また、学生ボランティアセンター等との共催による活動報告会（LINKtopos）に参加する等して、復興支援に係る意識啓発活動を行った。</p>	<p>○学内サークル活動の参加状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>サークル活動の参加率 (%)</td> <td>65.4</td> <td>70.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ボランティア活動等の参加状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ボランティア活動</td> <td>45.8</td> <td>44.5</td> </tr> <tr> <td>国際交流活動</td> <td>8.0</td> <td>9.7</td> </tr> <tr> <td>地域活動（町内会活動等）</td> <td>7.4</td> <td>12.5</td> </tr> <tr> <td>学外のクラブ・サークル活動</td> <td>11.6</td> <td>14.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(%)</p> <p>○審議会委員等への参画状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>審議会委員等への就任、講師派遣数</td> <td>997</td> <td>968</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">うち</td> <td>行政機関</td> <td>500</td> <td>449</td> </tr> <tr> <td>非常勤講師</td> <td>120</td> <td>106</td> </tr> </tbody> </table> <p>(人)</p>	区分	H25	H26	サークル活動の参加率 (%)	65.4	70.5	区分	H25	H26	ボランティア活動	45.8	44.5	国際交流活動	8.0	9.7	地域活動（町内会活動等）	7.4	12.5	学外のクラブ・サークル活動	11.6	14.0	区分	H25	H26	審議会委員等への就任、講師派遣数	997	968	うち	行政機関	500	449	非常勤講師	120	106
区分	H25	H26																																						
サークル活動の参加率 (%)	65.4	70.5																																						
区分	H25	H26																																						
ボランティア活動	45.8	44.5																																						
国際交流活動	8.0	9.7																																						
地域活動（町内会活動等）	7.4	12.5																																						
学外のクラブ・サークル活動	11.6	14.0																																						
区分	H25	H26																																						
審議会委員等への就任、講師派遣数	997	968																																						
うち	行政機関	500	449																																					
	非常勤講師	120	106																																					

区分	評価				AA評価項目	摘要																															
	区分	法人	委員会	委員会評価割合(%)																																	
					<p>(3) 岩手県立大学災害復興支援センターの主催により、県立大学、オハイオ大学及び本庄国際奨学財団の学生が協働し、被災地（大槌町・陸前高田市）で水ボラ活動（ペットボトルのお茶を仮設住宅に無償配布する活動）や菜の花プロジェクト（河川敷環境整備事業）を実施（9/26～28）した。（参加者：県立大学 37 名、オハイオ大学：14 名、本庄国際奨学財団：27 名、大槌高校：9 名）</p> <p>(4) オハイオ大学及び本庄国際奨学財団等との協働事業や文部科学省補助事業「いわての教育及びコミュニティ形成復興支援事業」が平成 27 年度に節目を迎えることから、復興支援員会議（全 3 回）において、今後の災害復興支援センターの取組について議論した。</p> <p>6 公開講座、専門職業教育等の充実【No32】</p> <p>(1) 専門職（看護師、社会福祉士、管理栄養士等）を対象とした高度専門教育を以下のとおり実施した。</p> <p>【看護学部】 看護研究実践センターによる研修事業を 16 件実施（H25 年度より 2 件増加）。</p> <p>【社会福祉学部】 岩手県社会福祉士会主催の「実習指導者フォローアップ研修会」に教員 1 名を講師として派遣。</p> <p>【総合政策研究科】 公共政策フォーラムを 2 回開催。</p> <p>【盛岡短期大学部】 管理栄養士資格取得のための講座を全 8 回開催（受講者 71 名）。</p> <p>(2) 公開講座については、滝沢キャンパス講座（7 講座、延べ受講者 656 名）のほか、滝沢市、釜石市、宮古市、洋野町において地区講座（延べ受講者 152 名）を開催した。なお、釜石市、宮古市では、被災地域であることから、復興加速化プロジェクト研究内容を講演テーマとする一方、滝沢市、洋野町では、市町村の生涯学習担当課等と調整の上、地域のニーズを踏まえた講座内容とした。なお、滝沢地区講座は滝沢市陸大学と、洋野地区講座はひろの町民大学と共催で開催した。さらに、ソフトウェア情報学部では「岩手県立大学 I T 体験教室」のほか 3 講座、総合政策学部では「外来種問題を考えるシンポジウム」のほか 6 講座を開催した。その結果、公開講座の参加者数が前年度より大幅に増加した。（H25：2,402 名⇒H26：3,270 名）</p>	<p>○公開講座の開催状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公開講座数(回)</td> <td>63</td> <td>67</td> </tr> <tr> <td>公開講座の参加者数(人)</td> <td>2,402</td> <td>3,270</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H25	H26	公開講座数(回)	63	67	公開講座の参加者数(人)	2,402	3,270																						
区分	H25	H26																																			
公開講座数(回)	63	67																																			
公開講座の参加者数(人)	2,402	3,270																																			
<p>II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置</p> <p>「おおむね計画どおり進んでいる」と判断される</p> <p>※AA～B 評価割合 100.0%</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>法人</th> <th>委員会</th> <th>委員会評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>AA</td> <td></td> <td>1</td> <td>16.7</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>66.6</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>16.7</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	法人	委員会	委員会評価割合(%)	AA		1	16.7	A	5	4	66.6	B	1	1	16.7	C	0	0	0.0	D	0	0	0.0	計	6	6	100.0	<p>7 SD（スタッフ・ディベロップメント）活動の推進【No39】</p> <p>(1) 「カリキュラムの体系化」を中心テーマに全学FD・SDセミナー（FDとSDを融合させたプログラム）を 2 回開催した。第 1 回は 62 名（教員 41 名、職員 21 名）、第 2 回は 67 名（教員 52 名、職員 15 名）が参加し、大学教育改革の動向を知るとともに、各学部からの事例報告を通してカリキュラム構築の考え方を共有する機会とした。</p> <p>(2) 大学質保証フォーラム（1 名）、大学教務実践研究会（3 名）、大学コンソーシアム京都 SD フォーラム（1 名）、大学創生エンジン（3 名）、公立大学協会教務系実務担当者協議会（1 名）など、学外で行われる SD プログラムに参加した。また、大学教育学会及び日本高等教育学会にも職員が各 1 名参加し、教育プログラムへの理解を促進する機会とした。なお、これらの研修成果を共有するため、研修報告会を前後期各 1 回ずつ実施した。（いずれも参加者 30 名）</p> <p>(3) 家庭の事情等により宿泊を伴う研修に参加することが難しい職員に対して、新たに e ラーニング研修を実施した（受講者：延べ 250 名）。また、職員のキャリア形成支援の新たな取組として、公立大学協会事務局への派遣研修体制を整えた。</p>	<p>○SD参加者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SD参加者数(人)</td> <td>82</td> <td>120</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H25	H26	SD参加者数(人)	82	120
区分	法人	委員会	委員会評価割合(%)																																		
AA		1	16.7																																		
A	5	4	66.6																																		
B	1	1	16.7																																		
C	0	0	0.0																																		
D	0	0	0.0																																		
計	6	6	100.0																																		
区分	H25	H26																																			
SD参加者数(人)	82	120																																			

区分	評価				AA評価項目	摘要												
	区分	法人	委員会	委員会評価の割合 (%)														
III 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置 「おおむね計画どおり進んでいる」と判断される ※AA～B 評価割合 100.0%	AA		0	0.0														
	A	3	3	75.0														
	B	1	1	25.0														
	C	0	0	0.0														
	D	0	0	0.0														
	計	4	4	100.0														
IV 自己点検・評価・改善及び情報の提供に関する目標を達成するための措置 「計画どおり進んでいる」と判断される ※AA～B 評価割合 100.0%	AA		1	33.3	8 多様な広報媒体を活用した広報活動の展開【No46】 (1) 今年度新たに広報パートナーズミーティング（県立大学の広報に関するテーマについて、定期的に意見交換や議論を行う場）を設置し、各学部の広報担当教員との連携を深めるとともに、広報ツールや県立大学のキーコンセプトを検討した（全16回開催）。また、先進的な大学広報の取組を行っている聖学院大学の広報局長を講師として講演会（3/5）を開催し、意見交換を行った。（新規） (2) 県立大学に関するトピックス、イベント情報等を各種マスメディアやソーシャルメディアで積極的に展開した。また、県立大学の魅力を分かりやすく伝える紹介動画を学生と協働で新規に制作し、ホームページで公開するとともに、ソーシャルメディアや駅広告を活用した広報を行った。ホームページについては、閲覧者の利便性の向上を図るため、スマートフォン対応可能なサイトとした。 (3) 入学案内、広報誌等の主要広報媒体についてリニューアルを行った。また、オープンキャンパスでは、キャンパスアテンダント（入試に関わる広報活動を行う学生）によるワークショップ等を新たに企画し、内容を充実させたほか、多方面での広報を展開したところ、来場者が前年度よりも増加した。（H25：2,500名→H26：2,700名）	○ホームページ（HP）のアクセス <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>HPのアクセス数</td> <td>4,167,875</td> <td>4,287,293</td> </tr> </tbody> </table> ○フェイスブック（FB）のフォロワー <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>FBのフォロワー数</td> <td>511</td> <td>693</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H25	H26	HPのアクセス数	4,167,875	4,287,293	区分	H25	H26	FBのフォロワー数	511	693
	区分	H25	H26															
	HPのアクセス数	4,167,875	4,287,293															
	区分	H25	H26															
	FBのフォロワー数	511	693															
	A	3	2	66.7														
B	0	0	0.0															
C	0	0	0.0															
D	0	0	0.0															
計	3	3	100.0															
V その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置 「計画どおり進んでいる」と判断される ※AA～B 評価割合 100.0%	AA		1	33.3	9 教職員・学生の健康増進、危機管理対策の徹底【No50】 (1) 教職員の心身の健康保持のため、健康相談の対応を行った（延べ166件）。なお、一定の労働時間を超えた教職員に行う保健指導の対象者はいなかった。 (2) メンタルヘルスチェック事業（回収者328名、回収率78.7%）を実施するとともに、メンタルヘルスセミナー「職場における心の健康づくり～メンタルヘルスチェックの活用～」(10/29、参加者85名)を開催した。 (3) 心身の不調を訴える学生が増加していることから、休養スペースを確保するとともに、相談体制を見直して学生が出来るだけスムーズに相談できるよう配慮を行った（相談件数3,072件）。【No18再掲】 (4) 事象別の危機管理マニュアルについて、NBCR災害（核物質、生物剤、化学剤、放射性物質）（滝沢・宮古）、暴力対応（宮古）、風水害（宮古）マニュアルが完成し、全19事象のマニュアルを整備した。また、エマージェンシーカード（携行用大規模地震対応マニュアル）を新たに作成し、全学生及び教職員に配付した。 (5) 全学を対象とする緊急放送訓練、避難訓練、避難誘導訓練等の防災訓練を実施した（10/16、参加者1,495名）。	○危機管理マニュアル整備率 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>危機管理マニュアル整備率 (%)</td> <td>78.9</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H25	H26	危機管理マニュアル整備率 (%)	78.9	100						
	区分	H25	H26															
	危機管理マニュアル整備率 (%)	78.9	100															
	A	3	2	66.7														
	B	0	0	0.0														
	C	0	0	0.0														
D	0	0	0.0															
計	3	3	100.0															

区 分	評 価				A A 評 価 項 目	摘 要
	区分	法人	委員会	委員会評定の割合 (%)		
					<p>(6) 災害時安否確認システムを構築し、新たに報告訓練を実施した（報告率：第1回 65.1%、第2回 51.5%、第3回 40.8%、第4回 43.4%）。また、報告訓練の未報告者を対象に追加調査を実施したところ、47名から回答があった。</p> <p>(7) 災害発生時に備え、防災倉庫に、毛布、非常食、洗面用具、ブランケット等の生活用品を保管した。</p>	
合 計	AA		9	18.0		
	A	42	33	66.0		
	B	8	8	16.0		
	C	0	0	0.0		
	D	0	0	0.0		
	計	50	50	100.0		